

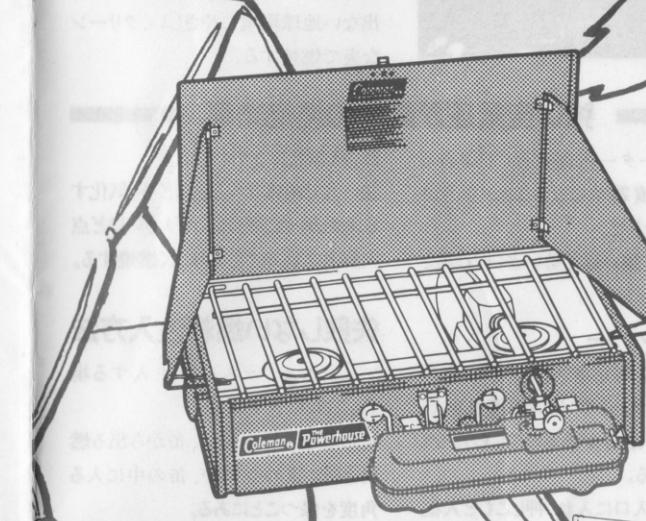


コールマンジャパン株式会社

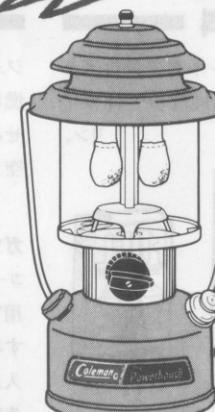
本社 〒103 東京都中央区日本橋箱崎町5-14 JBP箱崎ビル2F ☎03(3668)5041
大阪支店 〒530 大阪市北区西天満1-7-20 JIN ORIXビル801 ☎06(364)5502



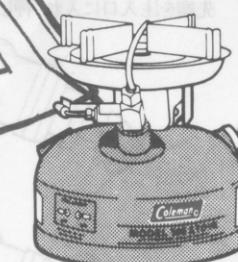
ランタン・ストーブ 取扱の手引き



TWO BURNER STOVE



LANTERN 気球人主機器



SINGLE BURNER STOVE

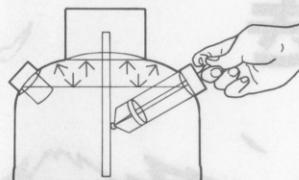
COLEMAN JAPAN Co., Ltd.

ガソリンタイプ燃焼器具の基本的な仕組み

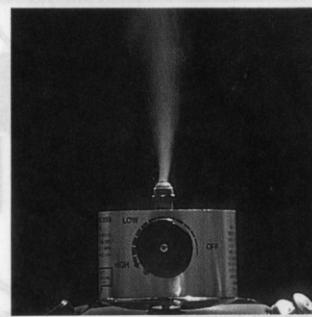
力強いポンピングによる空気圧が最大のポイント

コールマンのガソリンを燃料とする器具は、共通のシステムになっている。(キヤタリティックヒーターを除く)

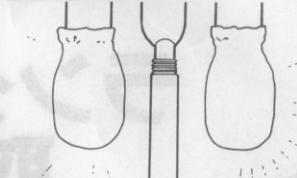
①ポンピングで燃料タンク内に空気圧を加える。



②燃料バルブの操作で圧力のかかった燃料がこのように噴霧状になつてジェネレーター内に送られる。



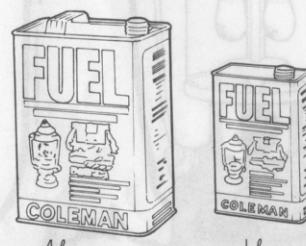
③バーナーやマントルの燃える熱で、ジェネレーター内部を通る燃料が気化される。



④気化された燃料が、空気中の酸素と混じりあって燃えるのでススの出ない地球環境にやさしい、クリーンな炎で燃焼する。

純正燃料

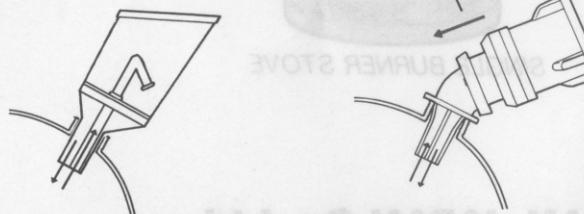
アメリカコールマン本社の分析表をもとに精製した、高純度ホワイトガソリン。



燃料注入用アクセサリー

フューエルファネル

燃料缶に入ったゴミなどを取り除く特殊フィルタつきじょうご。空気抜きがあるのでガソリンの注入はスムーズ。



強い空気圧が最高の燃焼効率

ジェネレータ内部に押し出される燃料が、噴霧状になることが気化させるポイントだ。空気圧が強いほど勢いよく押し出さ

れ、噴霧状になりやすい。強い力で噴霧状になるほど早く気化する。したがって空気圧が大きいほど点火操作も簡単で効率よく燃焼する。

ガソリンフィラー

コールマン純正ホワイトガソリン缶専用アダプター。ガソリンの流れをよくする、空気抜きがあるのでむだなく入れられる。

先端を注入口に入れ、押しこむと入る。

失敗しない燃料注入方法

フューエルファネルで注入する場合、こぼすことがある。

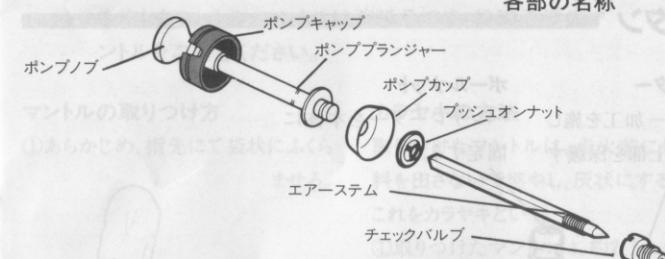
失敗しない注ぎ方は、缶から出る燃料と同じ量の空気が、缶の中に入る角度を保つことにある。



この角度から注ぎ始めるうまく入れられる缶の注ぎ口を上にして入れる。

正しいポンピングの手順

各部の名称



①燃料バルブを「OFF」にセットする。



②ポンプノブを、左に2回転させる。



③親指でポンプノブの穴を押さえ、人差し指と中指を添える。



④手前いっぱいまで引いて、奥まで押しこむ正確なストロークを繰り返す。この操作をポンピングといふ。



⑤固くなつて指の力で入らなくなつたら、ノブを押しこんで右に止まるまでまわす。



間違った方向に押すと、エアーステムを曲げるなど、故障の原因となる。

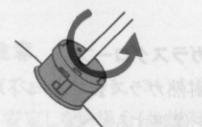
ポンプカップ交換の手順

ポンプカップが破れたり傷つくと、空気圧を送りこめなくなるので交換する。

①ノブを左に10回転以上させ、チェックバルブからエアーステムをはずす。



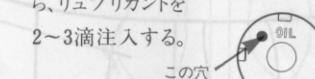
②ポンプキャップを左に回転させ、ポンプノブを抜きとる。



ポンピング操作上の注意

ポンプカップの乾燥

ポンプカップが乾燥していると、ポンピングしても空気が入らない。ポンプキャップの「OIL」と表示のある穴から、リュブリカントを2~3滴注入する。



リュブリカント

ポンプカップ専用特殊オイル。

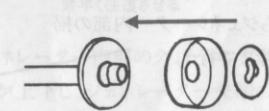
乾燥した状態で無理にポンピングすると、ポンプカップがめくれるなど破損の原因となる。

ポンピングは正確に。ポンプノブが固くなつても、ポンプランジャーと平行になるよう、正しくストロークする。

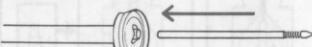


⑥ポンプノブをセットし、ランジャーを右にとまるまでまわして、完了。

④新しいポンプカップをノブ先端にプッシュオンナットで固定する。



⑤ポンプカップにリュブリカントをつけ、エアーステムをポンプランジャーの中に入れる。



⑥ポンプノブをセットし、ランジャーを右にとまるまでまわして、完了。



Lanterns ランタン各部の名称と役割

ツーマントルランタン



マントルの扱い方と注意

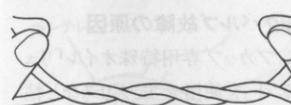
360度回りを明るく照らす、白い光の秘密は、特殊処理を施したマントル。マントルは消耗品です。常時予備のマントルをご用意ください。

マントルの取りつけ方

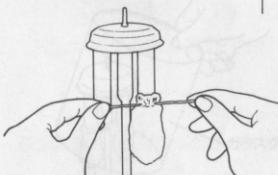
- あらかじめ、指先にて袋状にふくらませる。



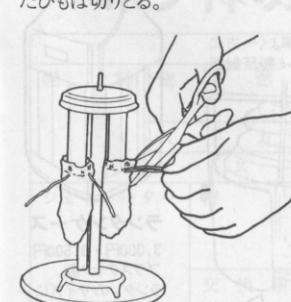
- ひもを二重に仮結びする。



- バーナーチューブ先端の、正しい位置に取りつける。



- しわが均等になるよう整えて、余ったひもは切りとる。



カラヤキの方法

取りつけたマントルは、点火前に燃料を出さないで燃やし、灰状にする。これをカラヤキといいます。

- 取りつけたマントルは、約7.5cmの長さ。

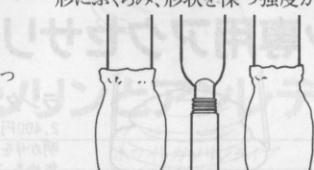
- マントル下部から均等に火をつけ燃やす。



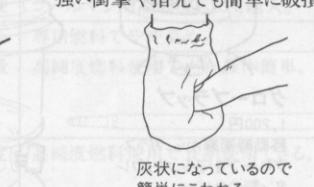
- カラヤキすると、約5cmに縮む。



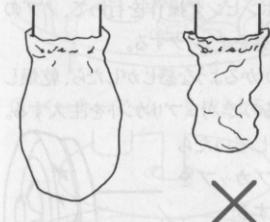
- カラヤキしたマントルは、縮んで小さくなるが、点火すると丸みを帯びた形にふくらみ、形状を保つ強度がある。



- カラヤキしたマントルは、もろくなり強い衝撃や指先でも簡単に破損する。

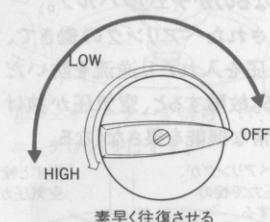


- カラヤキしないで点火すると、縮みが激しいひつな形狀で小さくなる。必ずカラヤキしてから点火する。

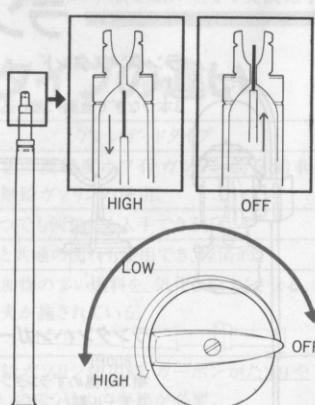


点火時の注意

正確な操作で点火しても、ついたり消えたりして安定しない場合は、燃料バルブを「OFF」と「HIGH」の間で素早く2~3回往復させる。



ジェネレーター内部のクリーニングロッドが上下し、ジェネレーター先端の小さな穴を掃除して、燃料の通りをよくし、すぐに安定した炎に変わる。

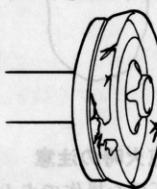


ランタンの点検と修理

使用前の点検

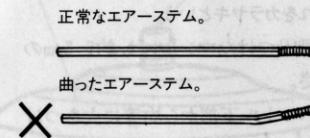
ポンプカップの乾燥

軽くポンピング操作を行って、ノブの抵抗感をチェックする。
ひっかかるような感じがしたら、乾燥しているので、リューブリカントを注入する。破損していたらポンプカップを交換する。



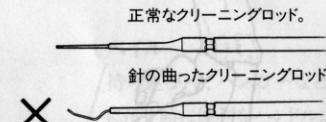
エアーステム

エアーステムや、ポンププランジャーが曲がっていないか。曲がっていたら、ポンプノブ全体を取り替える。



ジェネレーター

クリーニングロッド先端の針が、曲がったり、折れていると正常な機能を果たさなくなるので、ジェネレーターを交換する。



チェックバルブの働き

ポンピング操作で燃料タンク内に、空気圧を送りこむ際の、入り口になるのがチェックバルブ。
内蔵されたペアリングの働きで、空気圧を入れたり逆流を防いだりする。故障すると、空気圧が抜けで正常な機能を果さなくなる。

引くとペアリングが、中の圧力で栓の中の動きをする。

押すと栓がはずれ空気圧が入る。



点検方法

操作手順通りポンピングして、CLOSEの状態で、マッチなどの炎を、ポンプノブ先端の小さな穴に近づける。異常があると、小さな炎が出る。



チェックバルブ故障の原因

①ポンプカップ専用特殊オイル「リューブリカント」を使用せず、グリスなど粘着力のあるオイルを使った。
②ペアリングにゴミが付着した。
③エアーステムの曲がりが原因で、チェックバルブのネジ山が破損。などがあげられる。

ジェネレーター交換の手順

点火しにくい。完全燃焼しない。いつもより火力が弱い。火力調節ができない。このような場合は、ジェネレーターを交換する。

ジェネレーターは消耗品です。常時予備のパーツをご用意ください。

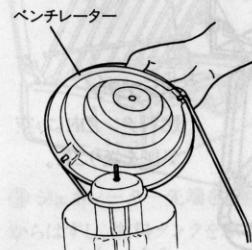
①ボルナットをはずす。



④スプリングクリップをゆるめる。



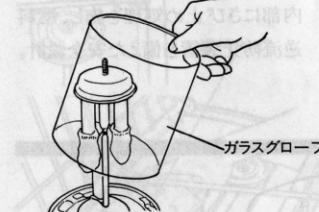
②ベンチレーターをはずす。



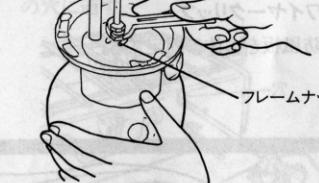
⑤ヒートシールドをはずす。



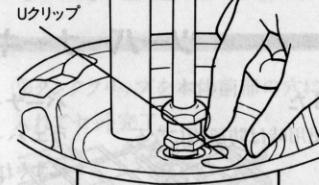
③ガラスグローブを抜きとる。



⑥フレームナットをゆるめる。



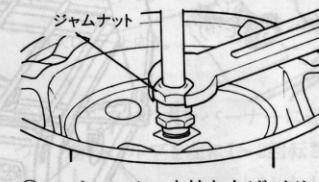
⑦Uクリップを取りはずす。



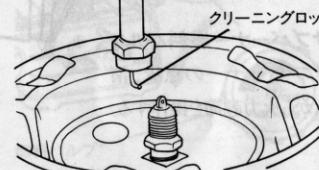
⑧バーナーアッシーを抜きとる。



⑨ジャムナットをゆるめる。



⑩ジェネレーターを持ち上げ、クリーニングロッドをはずす。



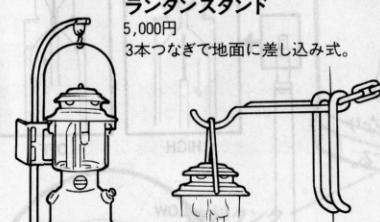
⑪新しいジェネレーターを取りつけ、⑩～①の手順で組み立てて交換完了。

ホワイトガソリンとアンレデットタイプの違い

燃 料	ホワイトガソリンタイプ		アンレデットタイプ	
	使 用 燃 料	純正の高純度ホワイトガソリン。	入 手 方 法	純正の高純度ホワイトガソリンと、自動車用無鉛ガソリンの併用。
	コ ス ト	コールマン商品取扱店にて購入。	専用燃料でやや高め。	いつでも何处でも入手できる。
ジェネレーター	特 徵	高純度燃料使用で点火操作簡単。	添加物の多い燃料を気化しやすくさせる、工夫が施されている。	車と共に燃料も使用でき、経済的。
	交 換 頻 度	高純度燃料使用で長期使用できる。		無鉛ガソリン使用時、カーボンがたまりやすいので 早めの交換が必要。

ランタン専用アクセサリー

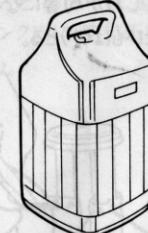
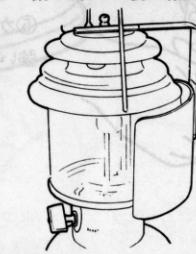
ランタンスタンド
5,000円
3本つなぎで地面に差し込み式。



ランタンハンガー
1,800円
樹木を傷めずランタンを吊すスチール製ハンガー。



ランターリフレクター
2,400円
明かりを効率よく一方に集める、アルミ製反射板。

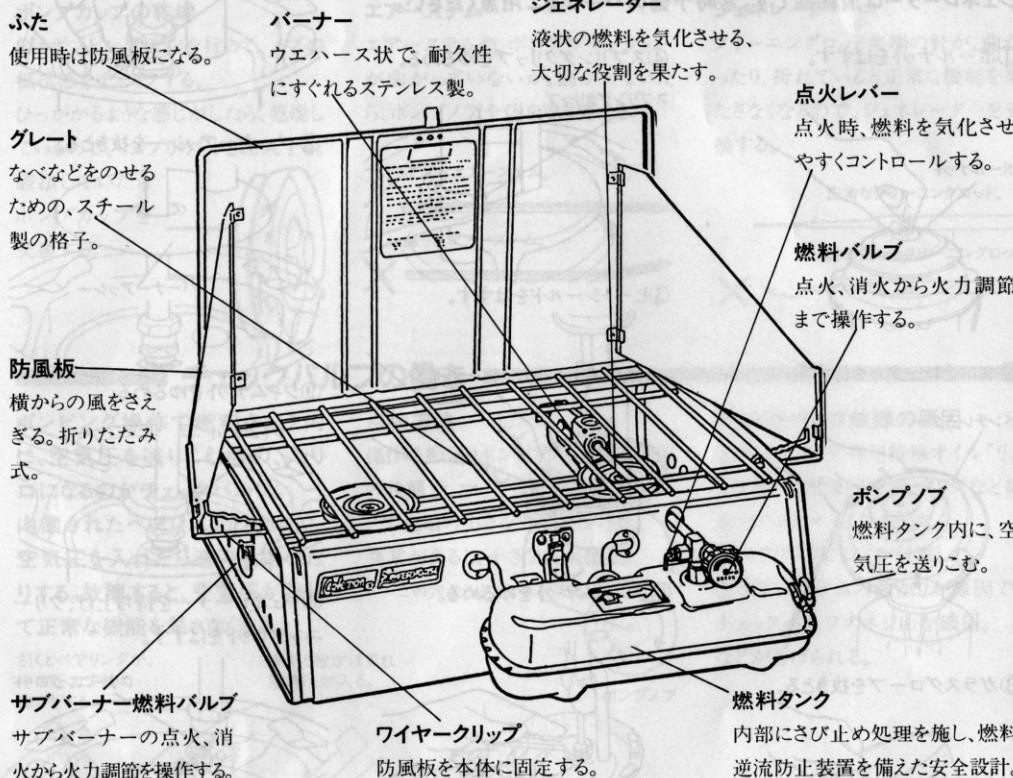


ランタンケース
3,000円・3,500円
プラスチック製。
ランタンのサイズに合わせて2種類。

Stoves

ストーブ各部の名称と役割

ツーバーナーキャンプストーブ



小型ストーブ

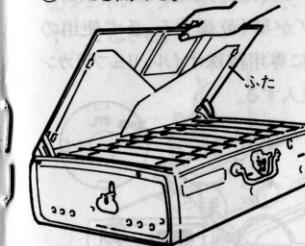


ツーバーナー使用上のポイント

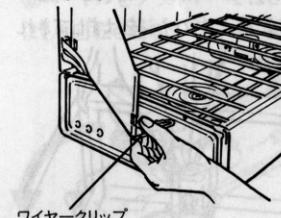
点火準備から点火方法まで

点火の準備

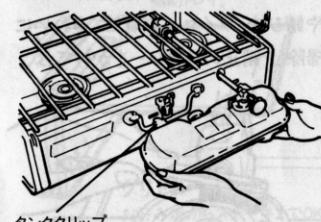
①ふたを開ける。



⑤ワイヤークリップを本体横の穴にセットする。

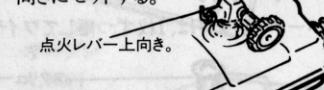


⑨タンククリップを本体前部の穴に入れてセット完了。

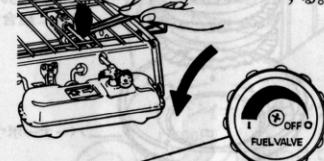


点火と火力調節

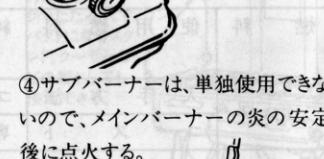
①点火レバーを上向きにセットする。



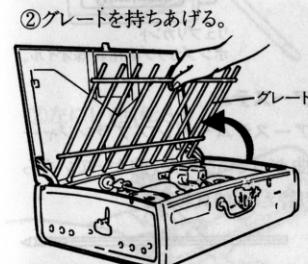
②ライターなどの炎をバーナーに近づけ、燃料バルブを左に1~2回転させてると点火する。



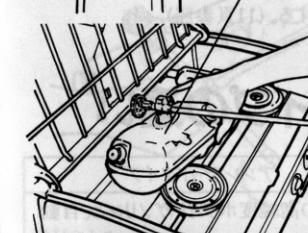
③点火直後の赤い炎から、正常な青白い炎に安定したら、点火レバーを下向にする。火力調節は燃料バルブで。



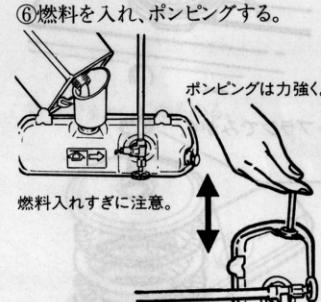
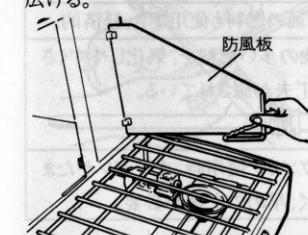
④サブバーナーは、単独使用できないので、メインバーナーの炎の安定後に点火する。



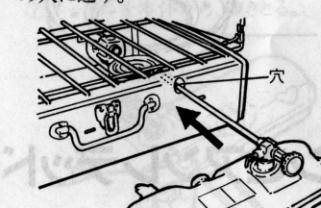
③ ジェネレーター先端を、本体凹部からはずし、燃料タンクを取りだす。



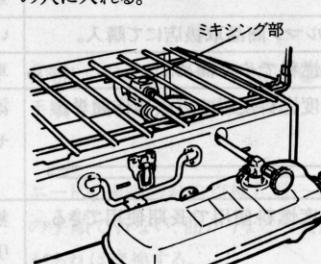
④ グレートをおろし、防風板を左右に広げる。



⑦燃料タンクをセット。
ジェネレーターの先端を、本体前部の穴に通す。



⑧ジェネレーター先端をミキシング部の穴に入れる。



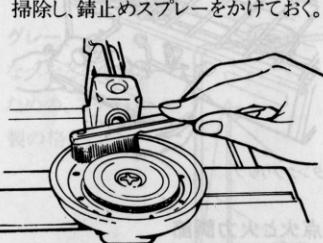
Stoves

ストーブの点検と修理

使用後の掃除と点検

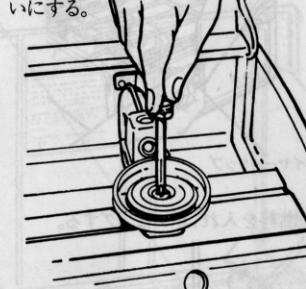
バーナーポウルの掃除

バーナー部分について、煮汁のこげや錆びを、ワイヤーブラシできれいに掃除し、錆止めスプレーをかけておく。



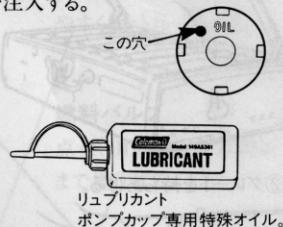
バーナー部の分解

バーナー部の錆びや汚れがひどい場合は、真ん中のネジをはずしてきれいにする。



ポンプカップの乾燥

ストーブは、火力が強いため、ポンプカップが早く乾燥する。必ず使用の前後に専用特殊オイル、リュブリカントを注入する。



エアーステム

エアーステムやポンププランジャーが曲がっていないか。曲がっていたら取り替える。(6頁参照)

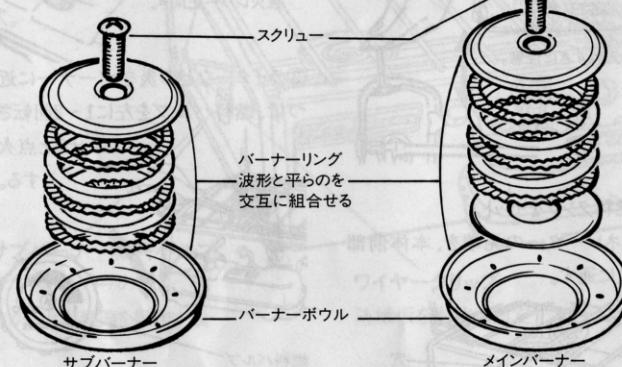


ジェネレーター

ジェネレーター内ニードル先端の、針が曲がっていると、正常な機能を果たさないので、ジェネレーターを交換する。(11頁参照)

バーナーリング

バーナーリングは、1枚ずつ離してワイヤーブラシでみがく。



ホワイトガソリンとアンレデッドタイプの違い

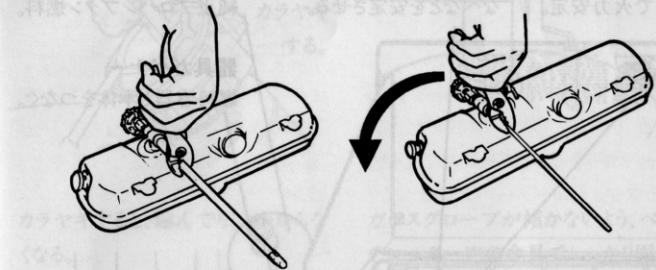
	ホワイトガソリンタイプ	アンレデッドタイプ	
燃 料	使 用 燃 料	純正の高純度ホワイトガソリン。	純正の高純度ホワイトガソリンと、自動車用無鉛ガソリンの併用。
入 手 方 法	コールマン商品取扱店にて購入。	いつでも何処でも入手できる。	
コ ス ト	専用燃料でやや高め。	車と共に燃料も使用でき、経済的。	
ジェネレーター	特 徵	高純度燃料使用で点火操作簡単。	添加物の多い燃料を、気化しやすくさせる、工夫が施されている。
交 換 頻 度	高純度燃料使用で長期使用できる。	無鉛ガソリン使用時、カーボンがたまりやすく、早めの交換が必要。	

ジェネレーター交換の手順

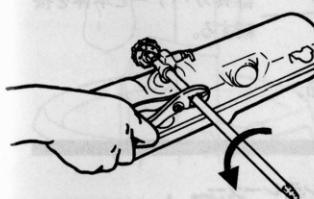
点火しにくい、完全燃焼しない、いつもより火力が弱い。火力調節ができない。このような場合は、ジェネレーターを交換する。

ジェネレーターは消耗品です。常時予備のパーツをご用意ください。

- ①ジェネレーターチューブを、プライヤーではさみ、左側でさす。
- ⑤ニードルをプライヤーではさみ、左側でさす。



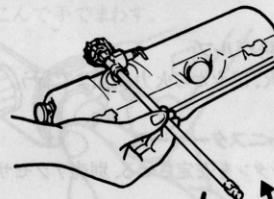
- ②左に1/4回転させる。



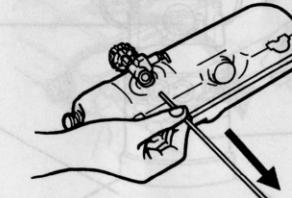
- ⑥手でまわしてゆるめる。



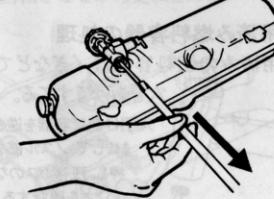
- ③手でまわしてゆるめる。



- ⑦ニードルを本体から、抜きとる。



- ④抜きとる。



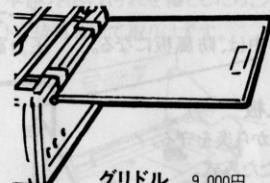
- ⑧新しいジェネレーターを⑦～①の手順で取りつけて交換完了。

ニードル先端の針の点検も、①～④の手順で行ない、曲がりなどの変形があれば交換する。

専用アクセサリー

シェフトレイ

4,000円(2枚入り)
調理器具などを置く、補助トレイ。



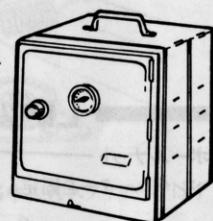
グリドル

9,000円
お好み焼からステーキまでOK。
シルバーストーン加工を施した、アルミニウムキャスト製。



オープン

12,000円
キャンプ料理の幅が広がる、折りたたみ式のオープン。



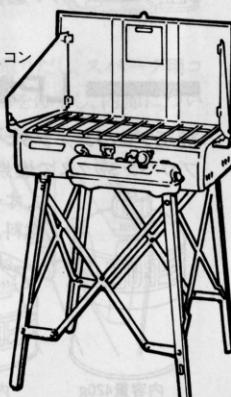
イージーポンピング

1,400円
ポンプノブに取りつけて、ポンピング操作を簡単にする。



ハイスタンダード

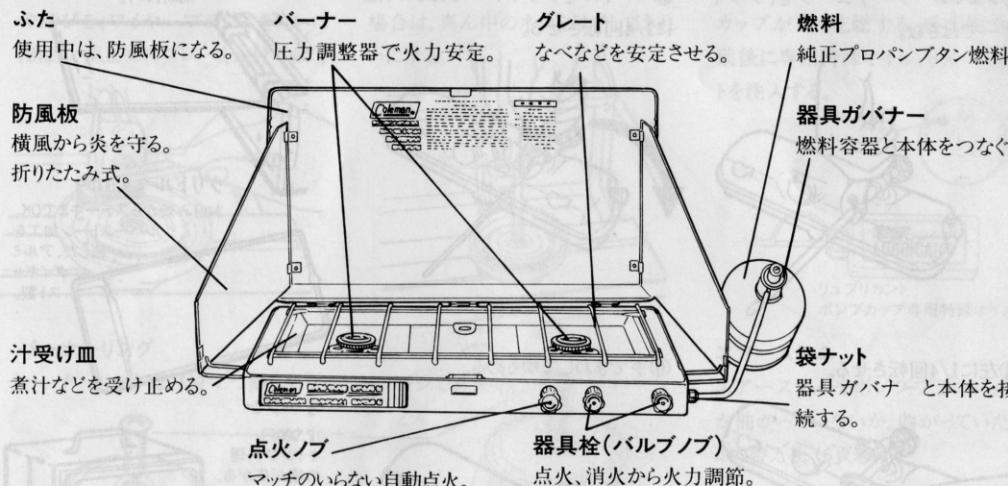
5,000円
折りたたみ式で、コンパクトになるスタンダード。クーラーなどの脚としても使用できる。



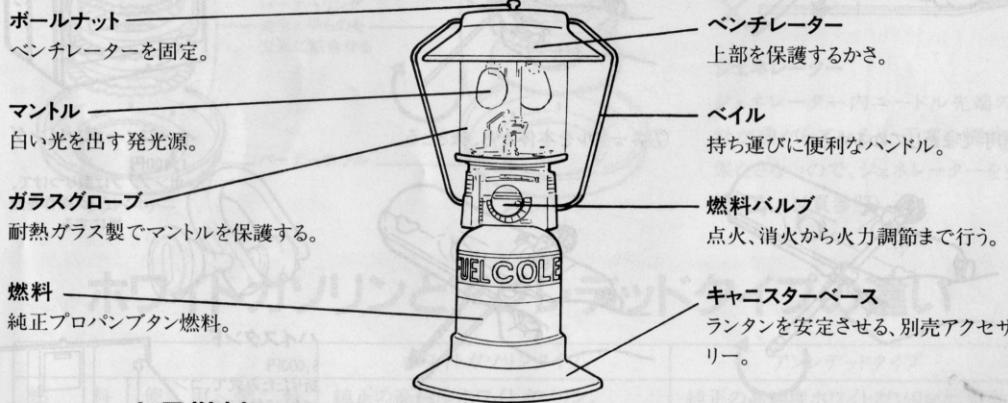
LP Lantern & Stove

LP燃焼器具各部の名称と役割

LPツーバーナー



LPツーマントル



LP燃料について

純正プロパン／ブタン燃料

プロパンミックスで燃焼効率を高めた、オールシーズン燃料。

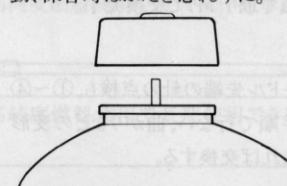


内容量420g

内容量200g

燃料容器のふた

ポンベのノズルがでているので移動、保管時はふたを忘れずに。



使用済み燃料容器の処理

使用済みの燃料容器は、くぎなどで穴をあけてする。
穴あけ前に容器を逆さまにしてノズル部を押し、残存ガスのないことを確認する。



燃えないごみの日にする

LPランタン使用上の注意

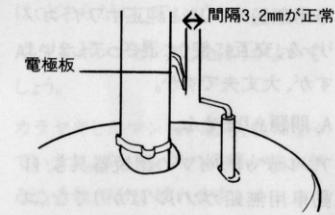
カラヤキ時の注意

エレクトロニックイグニッション(自動点火装置)付モデルは、電極板にマントルが引っかかるよう、傾けてカラヤキする。

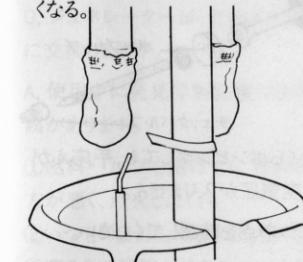


電極板の間隔

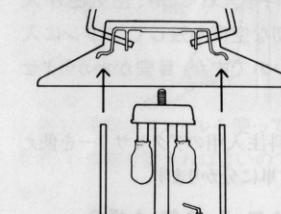
点火操作を行っても、電極板がスパークしない時は、間隔を調整する。



カラヤキすると、縮んで引っかかるなくなる。



ガラスグローブが傾かないよう、ベンチレーター内の金具でしっかりと固定する。



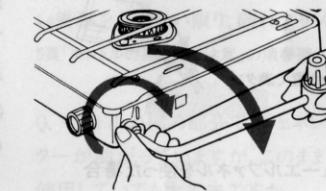
LPツーバーナー使用上の注意

器具ガバナーの接続

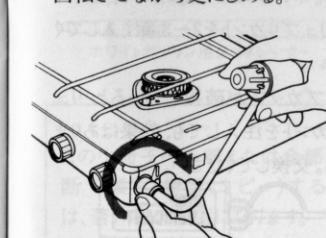
①接続部に、袋ナットをしっかりと押しこんで手でまわす。



③きつくなるまで繰り返し、完全に固定する。

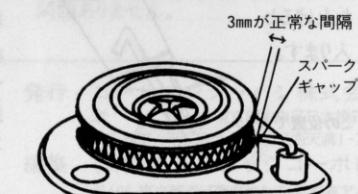


②固くなったら、器具ガバナーを右に回転させながら更にしめる。



スパークギャップの間隔

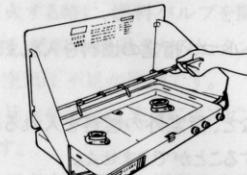
点火ノブを回転させても、スパークしない時は、間隔を調整する。



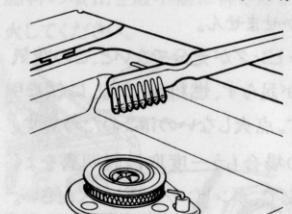
手入れと掃除

器具を長持ちさせるには、使用後の手入れが大切。特に海辺などの使用後は念入りに。

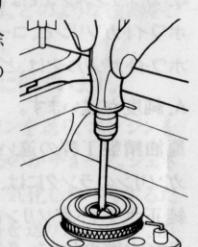
本体外側の汚れを落としたら、グレートを持ちあげて取りはずす。



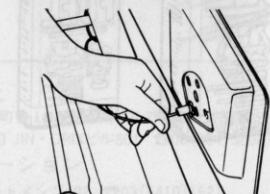
バーナー部の錆や汚れを、ワイヤーブラシできれいにみがく。



バーナー部中央のスクリューをはずし、バーナーリングの分解掃除や汁受け皿の掃除を行う。



汁受け皿を取りだし、スパーク用コードの接続部をはずし、内部についた汚れやごみを取り除く。



コールマン ランタン & ストーブ困ったときの Q & A

基本編

Q. 買ったばかりのストーブとランタンに火がつきません。どうしてでしょうか。

A. 基本的には二つのことが考えられます。

①コールマン指定の燃料を入れましたか。

灯油など、指定外の燃料を入れると点火することができません。

②充分にポンピングをしましたか。

コールマンランタンやストーブは、その構造上、燃料タンク内の空気圧が欠かせません。

ポンピングが充分でないと、この空気圧が足らず、燃料が気化しにくくなります。点火しないのはこのためです。この場合もう一度取扱説明書をよく読んで、ポンピングし直してください。

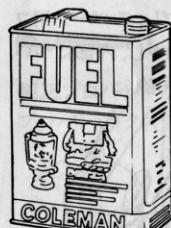
2~3頁「基本的な仕組み」の項参照

Q. ガソリンスタンドなどで売っているホワイトガソリンと、コールマンの純正ホワイトガソリンとは、どこが違いますか。

A. 純度が違います。

原油精製工程の違いにより、ホワイトガソリンのタンクには、幅があります。純正ホワイトガソリンは、その中でも最高水準のものを、さらに精製した高

純度ホワイトガソリンです。



Q. アンレデッドタイプの器具に、自動車用無鉛ガソリンと純正ホワイトガソリンを、交互に使うと混ざってしまいますが、大丈夫ですか。

A. 問題ありません。

アンレデッドタイプの燃焼器具も、自動車用無鉛ガソリンばかりでなくコールマン純正ホワイトガソリンも使うことでジェネレーターの寿命を長くさせます。

Q. 燃料を入れるとき、空気圧が入る適切な空間を残して、満タンに入れたいのですが、目安がわかりません。

A. 燃料注入用のアクセサリーを使えば、簡単に分かります。

ガソリンフィラーを使った場合

燃料タンクを水平に置いた状態で燃料を注入して、入らなくなると満タンです。



フューエルファナルを使った場合

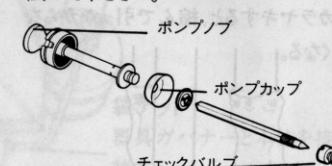
半分以上入ったと思ったら、ゆっくりと注いでください。入らなくなったら満タンです。ファナル内に残った燃料は、ファナルを少し持ち上げると入ります。



Q. ポンピングしようとして、ポンプノブを押しても、固くてポンピングできません。

A. ノブを、左に2回転させましたか。

ポンプノブを左にまわすことで空気圧の入口となるチェックバルブが開きます。入口を開けないと、空気圧が入りません。もう一度正しい手順で、試みてください。



Q. いくらポンピングしても、手応えがなく、空気圧が入りません。

A. 二つの点を確認してください。

①ポンプノブの穴を押さえてポンピングしましたか。

ポンプノブの穴を押さないと、その穴から空気が逃げて、タンク内に圧が入りません。必ずノブの穴を親指で押さえ、中指と人差し指を添えて正しくポンピングしてください。

②ポンプノブ先端の、ポンプカップ(上図参照)が乾燥していたり破損していないませんか。

ポンプカップが乾燥していると、隙間から空気がもれて、タンク内に入りません。ポンプカップ専用の特殊オイル、リュブリカントを2~3滴注入してください。

ポンプカップが破損していると、リュブリカントを注入しても、効果はありません。交換してください。

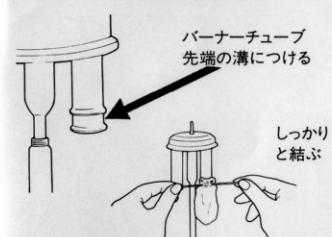


ランタン編

Q. 上手にマントルを取りつけるには、どうしたらよいでしょう。

A. 正しい位置に、しわが均等になるように取りつけるのがポイントです。

5頁「マントルの取扱方法」の項参照



Q. ジェネレーターは、どのようなときに交換しますか。

A. 使用中に発見できる、幾つかの兆候があります。

①燃料バルブを開けても、燃料の出方が悪く、点火しにくい。

②いつものように、明るくならない。

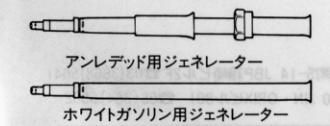
③明るさの調節ができない。

このような兆候があつたらアンレデッドタイプは、ジェネレーターを交換します。

ホワイトガソリンタイプは、ジェネレーターをはずし、クリーニングロッド先端の針と、カーボンのたまりあいをチェックします。

針が折れていたり、カーボンの付着が激しい場合は、交換します。

7頁「ジェネレーター交換の手順」の項参照



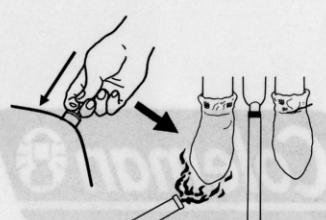
この小冊子の一部または全部を無断で複写・複製(コピー)することは、著作権の侵害になります。

Q. 新しいマントルをつけましたが、カラヤキしてからポンピングするのと、ポンピングしてからカラヤキするのでは、どちらがよいでしょうか。

A. 先にポンピングしたほうがよいでしょう。

カラヤキしたマントルは、灰状になっています。ポンピングの衝撃が強すぎると、それだけで壊れます。

5頁「マントルの扱い方と注意」の項参照



Q. 長い間同じマントルを使っていますが、いつ取り替えればよいのでしょうか。

A. 破れるまで使えます。

点火したマントルは、丸みを帯びた形状を保ち、強度を持ちます。

点火時にマッチの軸で触ったり、強い衝撃を与えない限り、破れません。

5頁「マントルの扱い方と注意」の項参照

Q. マントルの横の部分で、ジェネレーターが曲がっていますが、このまで使用していくても大丈夫ですか。

A. 機能が正常なら大丈夫です。

ジェネレーターチューブが曲がっていても、カーボンもなく、針も正常なら問題ありません。

発行 コールマンジャパン株式会社

本社 〒103 東京都中央区日本橋箱崎町5-14 JBP箱崎ビル2F ☎03(3668)5041

大阪支店 〒530 大阪市北区西天満1-7-20 JIN ORIXビル801 ☎06(364)5502

(株)キューピックコーポレーション

〒106 東京都港区西麻布3-6-4 麻布アパートメンツ402 ☎03(5410)1621

ツーバーナー編

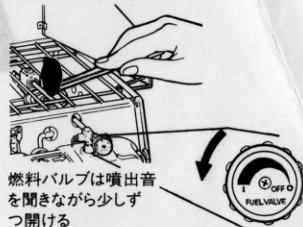
Q. 点火しましたが、いつまでも赤い炎で燃え、安定した炎になりません。どうしたらよいでしょうか。

A. 気化していない液状の燃料が、バーナー部の下にたまっています。

点火する時に、燃料バルブを開きすぎて、燃料が出過ぎたのと、タンク内の空気圧不足が原因です。

旦火を消して、充分にポンピングします。

再び点火する時は、燃料の出る音を確認しながら、燃料バルブを少しずつ左にまわし、炎が安定するまでは、燃料の噴出を最小限に押さえて点火してください。



Q. 点火レバーは、どのような役割をしているのですか。

A. 車のチョークに似ています。

濃いめのガソリンを送り、エンジンをかかりやすくするのがチョーク。ジェネレーター内で、気化しやすくするため、薄めの燃料を送り込むのが、点火レバーです。

